

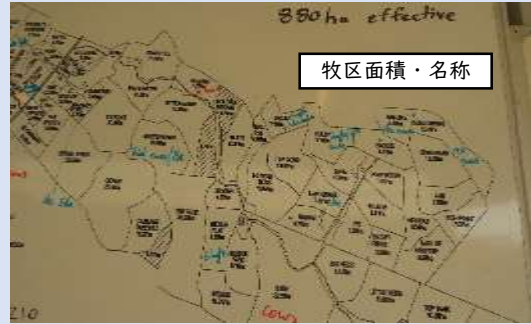
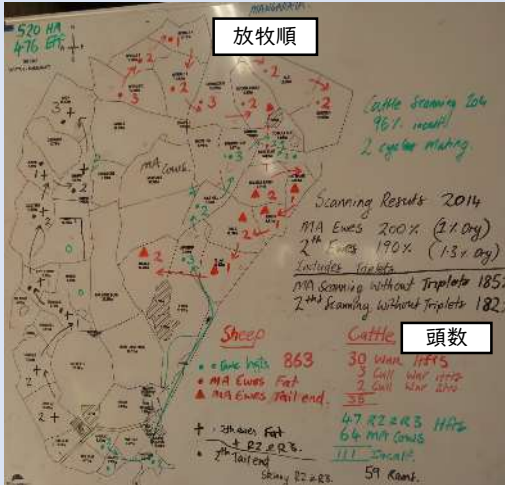


ちょっと一息・・・

# ニュージーランド酪農 生産現場の光景

今回は、ニュージーランド（NZ）の生産現場の風景からいくつかをご紹介します。  
農場現場改善のヒントとなれば幸いです。

## 放牧地の管理



ホワイトボードには放牧区毎の面積・名前付き地図が印刷されています。放牧草の再生具合をチェック後、家畜頭数など諸条件を基に、牧区の利用順を記入していきます。

## 栄養管理



NZは基本的に屋外で群飼養のため、飲み水経由で液状ビタミン・ミネラルを給与しています。また、ミルクパーラーでの糖蜜の経口投与、放牧草への粉状ミネラル散布等、効率的な作業により生産効果を上げる工夫をしています。

## 飼料給与



近年日本でも活用されているサイレージフィーダーです。

冬が近づくとどうしても草量が少なくなるため、ラップサイレージや乾草を筋状に給与することで、乾物摂取量をしっかり確保します。草架等でのロール定置よりも残飼が少なく済みます。

この機械のトラクタ接続部にはフォークアタッチメントが収納されており、ロールの積み込みもワンマンで行えます。

## 哺育牛の管理



放牧地で生まれた子牛は、初乳給与後、最初から群飼養のペンで飼育されます。厳寒地ではありえない造りですが、降雪量も少なく比較的温暖なNZだからこそ可能なもので、粗飼料・スターター・水、そして新鮮な空気・乾燥した敷料と、子牛に必要なものが十分に確保されています。移行乳・ミルクも複数頭同時に給与されます。

## その他、管理あれこれ



家畜車は2階建て・トレーラー連結方式、保定なしのバラ積みで、どこの農場にも積込口に合った誘導路が設置されています。

羊の場合も同様です。

前部トレーラーへの積込は、連結部をぴったりとくっつけそれぞれの扉を開けて、後部→前部へ牛を追い入れます(写真右)。



家畜市場では牛・羊とも群単位で競りを行うため、待機用のペンが無数に用意されています。競り人はペン上部の空中通路(写真左)を歩きながら、品定めします。



乳検時には、個体確認を迅速・正確に行うため専用センサー(写真内①)を使い、牛の耳に装着したICチップ(写真内②)をパーラー内で並び順に読み取ります。

採取サンプルとの照合ミスを少なくすることで作業の効率化を図ります。

国・地方が変われば、仕事の仕方、ものの考え方、文化等、大きく異なります。我々にとっては大雑把に感じる部分もあるかもしれませんが、科学に裏打ちされた放牧技術と、労働生産性を追求する姿勢は学ぶべきところが多くあります。

これらの写真や資料に興味のある方は、普及センターまでお気軽にご一報ください。